

建設部会視察見学会 報告書

- 開催日 平成 29 年 11 月 1 日 (水)
- 視察先 姫路城・好古園
(兵庫県姫路市本町 68)
- 目的 歴史的に貴重な建造物を見学するとともに会員相互の交流を深める
- 参加者 10 名 (事務局含む)
- 主催 三原商工会議所 建設部会



本所建設部会(赤利俊彦部会長)では、11月1日(水)、世界文化遺産である「国宝 姫路城」と姫路城西御屋敷跡庭園「好古園」を巡る視察見学会を実施しました。

当部会では、毎年、近代技術構造物・歴史的建造物について見聞を広めることと、会員相互の交流を深めることを目的に視察見学会を企画しています。

<当日のスケジュール>

三原駅 8:10 集合	---	姫路駅	--【タクシー移動】---	好古園・姫路城	・・【徒歩移動】・・
8:24 発 (ひかり 442 号)		9:24 着		9:50	—— 12:40
					(姫路城・ガイド案内)
・・千姫茶屋	・・・・・	みゆき通り商店街・姫路駅前商店	・・・・・	姫路駅中央改札口	・・
12:50/13:40(昼食)		13:45	・・(自由見学)・・	14:30	14:35(集合)
※しらす井が有名					
姫路駅	-----	岡山駅	-----	三原駅	
14:55 発		15:14/15:22		16:15 着	
(のぞみ 109 号)		(こだま 747 号)			

最初に、好古園を散策しました。

好古園は姫路城を借景にした日本庭園です。

面積は約一万坪で、池泉回遊式の「御屋敷の庭」や本格的数寄屋建築の茶室・双樹庵のある「茶の庭」など九つの庭園群で構成されています。



御屋敷の庭



流れの平庭



渡り廊下



双樹庵(茶室)



園内には、江戸時代の建築を再現した門や堀、さらには渡り廊下などが設けられていて、庭園の美しさと、日本の伝統的な建築の調和が楽しめるように造られています。

茶の庭にある、本格的数寄屋建築の茶室「双樹庵」で抹茶がいただけます。

また、江戸の情緒を醸しだすたたずまいは、時代劇や大河ドラマのロケ地にも使われているそうです。

次に、姫路城を訪れ、現地のボランティアガイドの方の案内をいただきながら見学しました。



姫路城は、日本最高峰の木造建築にして、世界でも類を見ない美的完成度を誇ります。城郭建築では外観の屋根の数を「重」、内部の階段を「階」で表します。

大天守も、外から眺めると一見して5階建てに見えますが、内部の造りは地上6階・地下1階の7階構成になっています。

また、大天守と渡櫓で結ばれた3つの小天守からなる日本で唯一の連立式天守になっていて、天守群を中心に櫓や門、土塀、石垣、濠など防御にも創意をこらした日本独特の城郭構成を表した代表的な建造物です。

白漆喰総塗籠造りの鮮やかな白壁が美しく、シラサギが羽を広げたような姿から「白鷺城」とも呼ばれています。



東西2本の大柱の最頂部で地階から5階の梁まで通る柱です。城を支える立派な柱には圧倒されました。外観だけではなく、天守内に使われている材木も一見の価値がありました。

姫路城の石垣を大きく3つの世代に分類



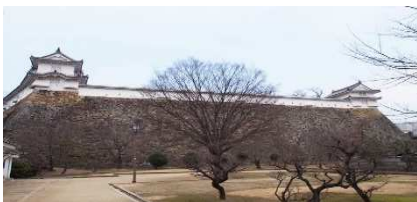
<羽柴秀吉の時代>

自然の石をほぼそのまま積んだ「野面積み」で、2段になった古式の石垣です。秀吉は黒田孝高を普請の責任者として姫路城を改修し、初めて本格的な石垣と当時としては目新しい三重の天守を築造し、中国攻めを貫徹する強い意思を、この姫路城の普請に込めているとも言われています。



<池田輝政の時代>

池田輝政は、8年もの時をかけて姫路城を大改築し、地下1階、地上6階の大天守を造りました。この時の天守の石垣は、隙間が少なく加工した石を使う「打込みハギ」で、角を下にした「落し積み」(谷積み)も混じる「乱積み」で美しく組みられています。



<本多忠政の時代>

本多忠政は、西の丸に「打込みハギ」の石垣を組んで整備しました。

異なる時代の石垣が混在していて、さまざまな年代の石、積み上げ方の違いを見聞することができました。

参加者からの声

- ・現地ガイド付きで解りやすく良かったです。
- ・現在のように、便利な機材が無い時代に、このような素晴らしい建造物を造った当時の職人の技術、智恵と工夫に感心しました。
- ・城だけではなく、周辺も公園として整備されていました。電線の地中化などにより景観づくりされ、その周辺の広さには驚きました。

